

9月10日（木）

ミラノ国際博覧会

2015年ミラノ国際博覧会は、5月1日から10月31日までの184日間開催されており、2005年の愛・地球博、2010年の上海万博に続く今世紀3度目の登録博覧会（大規模万博）となっている。開催テーマは「地球に食料を、生命にエネルギーを」であり、「食」をテーマとした万博である。

会場までバスで移動したが、会場周辺では多くのバスが駐車待ちをしており、早くから多くの人がつめかけている様子であった。

ゲートではセキュリティチェックがあり、多少の物々しさもあったが、会場内は明るく華やかな雰囲気であり、多くの人々で賑わっていた。

まず、日本政府代表の方との懇談のため、日本館に向かったが、開館前にもかかわらず、長蛇の列ができており、日本館の人気の高さを見ることができた。



日本館前

日本館貴賓室にて、加藤辰也 日本政府代表とお会いし、市会代表団、村上副市長、松井大阪府知事、経済界代表とともに、挨拶を行い、懇談を行った。

加藤代表から、日本は、「共存する多様性」をテーマに出展が決定した段階から精力的に取り組んできた。ご覧になったとおり、連日、長蛇の列となっており、日本や日本食に対する興味の高さが伺え、非常に好評を得ているとの話があった。

懇談後、日本館の視察を行った。



日本館貴賓室

日本館は「食」にまつわる様々な取り組みのほか、2013年12月にユネスコ無形文化遺産に登録された和食をはじめとする日本の「食」や食文化を紹介している。

日本館の規模は各国に割り当てられる敷地のうち最大規模となっている。

日本館の建築には、日本の伝統的木材建築に用いられている「めり込み作用」に、最新の解析技術を応用して作られた「立体木格子」を採用しており、建材には東日本大震災の被災地である岩手県産のカラマツを使用している。

2階建てとなっており、1階及び2階に展示エリア、2階がメインショー・会場、レストラン、イベント広場となっている。

展示エリアは、プロローグに始まり、5つのシーンで構成されており、「食」をテーマに「和」をふんだんに取り入れつつ、最新のテクノロジーを駆使した素晴らしい演出で構成されていた。日本食を紹介するシーンでは日本食の未来を見据えつつ、古来より日本食に込められた様々な知恵と技が紹介されており、日本食の素晴らしさを改めて感じる事ができた。また、最後のライブパフォーマンスショーやシアターは、レストランスタイルのショーで、来場者1人1人が本物の「箸」を使用しながら映像ディスプレイにより日本食の魅力を感じることができるなど、参加型・体感型イベントとなっており、大いに盛り上がっていた。



日本館内

日本館視察後、日本館2階イベント広場にて大阪市出展オープニング式典が開催された。

ミラノ市関係者や総領事館関係者、経済界の方々をはじめ多くの出席者のもと、まず、村上副市長から主催者を代表して挨拶があり、来賓としてフランチェスカ・バルザーニ ミラノ市副市長から挨拶をいただき、松井 大阪府知事の発声により鏡開きが行われ、祝い酒が振舞われるなど、和やかな雰囲気の中、式典が開催された。

また、大阪・ミラノ姉妹都市交流親善大使らによるパフォーマンスも行われ、会場からあふれる見学者で大いに盛り上がっていた。



PR用 のぼり

【村上副市長 挨拶要旨】

来年のミラノ市と大阪市の姉妹都市提携35周年を記念して、「ミラノ国際博覧会」に出展し、このように盛大にオープニングを祝うことができたことにお礼申し上げます。

また、今回のミラノ万博出展に際し、パフォーマンスをいただく企業・団体の皆様には、「大阪の魅力発信のために」という強い思いの中、協力いただいたことに感謝する。

今回のミラノ万博では、「姉妹都市大阪から魅力発信～Buon giorno da OSAKA（ボンジョルノ ダ オオサカ）！」と題して、大阪の「食」と「観光」の魅力や両市の姉妹都市交流の歩みを紹介する。

古くから「食」の都として知られてきた大阪の「食」、「食文化」の魅力や技術力の高さをPRし、大阪発のアイドルや歌劇ユニットによるライブパフォーマンスでは、世界で注目される「クールジャパン」を紹介する。

また、映像や展示等を通して、伝統文化と新しいエンターテインメント等、多様な楽しみあふれる大阪を知っていただければと思う。

今回のイベントは、ミラノ市をはじめ、イタリア、世界各国に大阪の魅力を発信し、ミラノ市と大阪市との姉妹都市交流関係を紹介する有意義な機会であると期待している。

【フランチェスカ・バルザーニ ミラノ市副市長 挨拶要旨】

ミラノ市と大阪市の姉妹都市提携35周年を心からお祝いするとともに、本日の素晴らしい式典にお招きいただいたことに感謝申し上げます。

姉妹都市提携というのは、友情・友好関係を結ぶということであり、大阪市とは文化・食・観光など様々な分野で交流を図ってきた。それに加え、友情というのはお互いが学び合うということであり、「学ぶ」というは大変重要な要素である。

今後も大阪市とは共に学び合いながら、将来に向けて両市が成長していくことを願っている。



ミラノ市副市長挨拶

式典終了後、イタリア館の視察を行った。

開催国であるイタリア館は、数多くのパビリオンがある中で長蛇の列ができていた。本館だけでなく、ワイン専門などのパビリオンも別があり、開催国としての力の入れようが感じられた。

内容はイタリアの食文化をアピールするものであり、あまりにも広く、全てをつぶさに見るにはかなりの時間を要すると思われる。イタリアの食文化をはじめイタリアの文化を深く知る良い機会となった。



シンボルタワー「生命の木」

イタリア館視察後、昼食をとり、その後に万博内を見学、再度、日本館イベント広場において、親善大使「大阪城サムライ・レディーズ」のパフォーマンスを見学してミラノ国際博覧会の視察を終了した。

国立レオナルド・ダ・ヴィンチ科学技術博物館視察

フィorenzo・ガッリ館長にお出迎えをいただき、館長のご案内により視察を行った。

【説明概要】

レオナルド・ダ・ヴィンチの生誕500年を記念して修道院を改築して建設され、1953年に開館した。

科学的思考の発達と工業技術の進歩をテーマにしており、ロボット技術に関するものなど13のラボラトリーがあり、研究者・技術者が研究・開発を行っている。また、プロの研究者だけではなく、週末には学生や一般の方にも開放している。

レオナルド・ダ・ヴィンチに関する膨大な資料を設計図や模型を使って展示している。

また、交通博物館の役割もあり、鉄道車両、自動車、船舶、航空機関係などの大型展示もある。

概要説明を受けながら、館内の視察を行ったが、大阪大学大学院の浅田稔教授が作成したレオナルド・ダ・ヴィンチのアンドロイドは大変素晴らしく、パソコン操作で人間のように動き、声が出て、会話をすることができ、一見の価値がある。(実は、

裏にオペレーターがおり、レオナルド・ダ・ヴィンチになり済ましていたことがわかった。)

また、視察後のレセプションでは、館長をはじめ博物館職員と意見交換・懇談を行った。



記念撮影